

ペルシア語の受動態は、過去分詞+shodan「～になる」によって表される。ただし、受動態を用いることができるのは、動作主が明示されない場合のみで、通常は動作主を主語にした能動態を用い、動作主が一般的である場合は、3人称複数形の能動態を用いる場合も多い。なお、動作主に焦点が置かれる場合は、be dast-e...「...により」、az taraf-e「...の側から」などの複合前置詞によって動作主を表すことは可能。

(7)～(9)で受動態をとるのは、(8)、(9)（動作主が明示されない場合）、(7)で、他は全て動作主を主語にした能動態をとる。

(7) アリーはハサンに叩かれた。

hasan 'ali rā zad.

[hasan:「ハサン」(人名) 'ali:「アリー」(人名) rā:「～を」(直接目的語を表す後置詞)]

(8) 私はハサンに足を踏まれた。

hasan pā-ye man rā leh kard.

[hasan:「ハサン」 pā:「足」-ye: エザーフェ man:「私」 rā:「～を」 leh kard: leh kardan「踏む」3sg 過去形]

(9) アリーはハサンに財布を盗まれた。

hasan kif-e 'ali rā dozdīd.

[hasan:「ハサン」 kif:「財布」 'ali:「アリー」 rā:「～を」 dozdīd: dozdīdan「盗む」3sg 過去形]

(10) 昨日の夜、私は子供に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

bachche-am dišab xeyli geriye kard, nagozāšt bexābam.

[bachche:「子供」 -am:接尾辞形人称代名詞 1sg geriye kard: geriye kardan「泣く」3sg 過去形 nagozāšt: gozāstan「～させる」3sg 過去否定形 bexābam: xābīdan「眠る」1sg 接続法現在形]

(オ) 新しいビルがハサンによって建てられた。

sāxtemān-e jadid be dast-e hasan sāxte šod.

[saxtemān: 「建物」 -e: エザーフェ jadid: 「新しい」 be dast-e: 「～(の手) によって」
sāxte: sāxtan 「作る」 過去分詞 šod : šodan 「～になる」 3sg 過去形]

(カ) イランではペルシア語が話されている。

dar irān fārsi sohbat mišavad.

[dar: 「～で」(場所を表す前置詞) irān: 「イラン」 fārsi: 「ペルシア語」 sohbat: 「話」
mišavad : šodan 「～になる」 3sg 現在形]

(キ) 私の財布がハサンに盗まれた。

hasan kif-e man rā dozdid.

[hasan: 「ハサン」 kif: 「財布」 -e: エザーフェ man: 「私」 rā: 「～を」 dozdid: dozdidan
「盗む」 3sg 過去形]

私の財布が盗まれた。

kif-am dozdide šod. / kif-e man dozdide šod.

[kif: 「財布」 -e: エザーフェ man: 「私」 -am: 接尾辞形人称代名詞 1sg dozdide: dozdidan
「盗む」 過去分詞 šod : šodan 「～になる」 3sg 過去形]

(ク) 壁に絵が掛けられている。

tablo ruye divār āvixte šode ast.

[tablo: 「絵」 ru-ye: 「～の上に」 āvixte: āvixtan 「吊す」 過去分詞 šode ast : šodan 「～に
なる」 3sg 現在完了形]

(ケ) シーリーンはホスローに／から愛されている。

xosrow širin rā dust dārad.

[xosrow: 「ホスロー(人名) širin: 「シーリーン」 rā: 「～を」 dust dārad: dust dāstan 「好
む, 愛する」 3sg 現在形]

(コ) ハサンはアリーに／から「…」と言われた。

'ali be hasan goft ke ...

['ali 「アリー」 be: 「～に」(方向を表す前置詞) goft: goftan 「言う」 3sg 過去形 ke: 「～
ということを」(名詞節を導く接続詞)]

*エザーフェ: 被修飾語と修飾語句を関係づける連結辞